

あらゆる製品、業務のマニュアルを作ります。スタートアップ企業、取説maker（中央区田名）は、マニュアル・取扱説明書をオーダーメイドで制作するビジネスを展開しています。製品マニュアルや業務マニュアル、サービスマニュアル…。その種類はさまざまです。どんなに素晴らしい技術や機能があったとしても、それを使いこなし、継承できる人がいなければ意味がなくなってしまいます。そこで必要になるのが、シンプルで明快なマニュアルです。同社は「分かりにくいものを分かりやすく伝える」をモットーに、ゼロから丁寧に制作しています。

## ■分かりやすく

同社が制作するマニュアルは2種類。一つが、身近でもよく見かける電気製品や通信機器など、いわゆるモノやシステムを使うことのためのマニュアルです。そしてもう一つが、技能継承や社員教育、業務の引き継ぎなど、いわゆる「ノウハウ」を見える化したマニュアルです。

2021年6月に設立されたばかりの企業ですが、大谷勇樹社長は学校卒業後にセキユリティ機器メーカーに就職し、専門部署にてマニュアル・取扱説明書を担当。以来、個人事業主時代なども含め約20年間、マニュアル制作一筋でやってきました。その数は約300種類に及ぶそうです。

「今まで目にしてきたマニュアルの多くは、開発者や技術者が書いたものです。そのため、どうしても技術的になってしまい、分かりにくいものばかりでした。

製品に優れた機能があっても、ユーザーが正しく理解できていなければ、安全かつ効果的に使用できません」と、大谷社長は力説します。そのため、同社では「分かりにくいマニュアルの根絶」と「ノウハウの継承につながるマニュアルの提供」を事業目的に掲げています。

実際の制作では、企業や担当者に対し、細かい部分まで時間をかけて丁寧に取材します。そして1ページ1ページ、図やイラストも交えながら分かりやすく作り込んでいきます。制作したマニュアルは冊子・電子版のみならず、外国人従業員や海外市場向けに多言語化することも可能です。制作費はページ当たり数万円としています。

## ■技能継承もサポート

「ノウハウのマニュアル化」にも力を入れています。中でも人手不足や技能継承の問題が顕在化する製造業向けに展開

しています。そこには、熟練職人たちのノウハウをマニュアル化で少しでも分かりやすくすることで、次世代人材の育成に貢献したいとの思いがあります。「確かに、技能継承の分野はマニュアルでは100%は伝えられません。しかし、技術の基礎や応用の要点をマニュアルにすることで、効率的に継承できるはずだ」と説明します。

このほか、属人化している業務や、言葉の壁がある外国人従業員のための業務マニュアルなど、同社が活躍できるフィールドは実に広範囲です。「今後はマニュアル制作のプロフェッショナル集団を目指していきます」としており、さらなる成長を見据えています。



## あらゆるマニュアルを制作 「伝えたい」をカタチに

（株）取説maker 代表取締役

**大谷 勇樹さん**